



地球暮らし

地球温暖化防止と
環境共生住宅を考える

秋空の下、自転車でおでかけはいかが？

皆さんこんにちは、さつまホームの瀧川です。3年くらい前、新聞のコラムにこんな記事がありました。東京の丸の内から官庁街までの約8kmを移動する手段として何が最速かを、都市計画の専門家が「まじめに」測定したところ、自転車がダントツの1位。続く地下鉄やタクシーの半分ほどの所要時間だったとのこと。クルマの生活が普通になっている人には不思議に思えるかもしれませんが、私にとっては実体験から納得できる結果です。そんなわけで、今月は自転車のお話です。



始めよう自転車生活 ~エコの実践の他、メタボ対策にも最適です~

自転車は優秀な都市交通手段

上記の通り、自転車は「健康にいい」とか、「環境にいい」とか言う前に、都市交通の手段として非常に有効といえるでしょう。会社まで片道4kmの道のりを、私は週のうち半分くらいは自転車で通勤しています(残りはバイクです)。自転車にまつわる最近の動きを拾ってみます。



こんな感じです

3人乗り自転車

自転車は本来は二人乗りも禁止されている乗り物ですが、今年7月の道路交通法改正により、“一定の安全基準を満たす自転車”であれば幼児を乗せた「3人乗り」の走行が可能となりました。お子さんを2人連れての買い物などを自転車で行くようになり、エコ対策と少子化対策に有効です。ただ、各メーカーから発売された3人乗り自転車の価格は最低5万円以



3人乗り自転車の例「適合車」である旨の認定章が必要

上と高額なのが当面の問題でしょうか。

電動アシスト自転車

自転車の弱点のひとつ、坂道を快適に走るために登場しました。自転車ですからもちろん免許は不要。日本は坂の多い国ですから、今まで自転車が使えなかった地域や、脚力の弱い高齢者などにとっては救世主となるでしょう。速度が出過ぎないように回路を組み込んで、安全性にも配慮されています。電動アシスト自転車の問題点であった、バッテリーの持続力は、きめ細かなアシスト力の制御と、一部の機種ですが回生ブレーキの搭載によりかなり改善されました。回生ブレーキとは、ブレーキをかけた時にモーターを発電機として使い、発生した電力をバッテリーに戻すというものです。また昨年12月の法改正でアシスト率(人力:モーターの補助力)の上限が1:2まで引き上げられました(従来は1:1まででした)。これにより、より急な坂でも登りやすくなります。



電動アシスト自転車の例 一見クロスバイクのようなモデルも

自転車タクシー

観光地などでよく目にする「自転車タクシー」は、電車や自動車では味わえない街との一体感が人気です。あのスピードだからこそ発見できるお店や、風景があります。日本では20数都市で運行中です。



福岡市の自転車タクシー

自転車を使いやすい環境整備を

問題は、日本では都市基盤の整備が自動車中心で行われて来たために、ヨーロッパなどに比べて自転車道や駐輪場の整備が圧倒的に遅れていることです。鳩山政権が世界に公言した「2020年までにCO2を1990年比25%削減」実現のためにも、都市交通の基盤を自転車にシフトするための環境整備を断行していただきたいものです。



トピック

CO2排出量中国が米国抜き世界1位

国際エネルギー機関(IEA)発表。07年の世界の排出量は290億トン(前年比3%増)。中国は60億トンと前年より8%増え、米国の58億トン(同1%増)を抜いてトップになったことが確定。インフラの違いから、今後も米国との差はさらに拡大すると予測。日本は12億トン(同2%増)で、国別ではロシア、インドに次いで5位。

今世紀末 真夏日2倍、熱帯夜3倍に

文部科学省などが発表。温暖化がこのまま進むと、今世紀末には日本の平均気温は4.0~2.1度上昇し、真夏日が最大で2.1倍の78日に、熱帯夜は3.3倍の57日に増加すると予測。

情報リンク

Verotaxi JAPAN

<http://www.velotaxi.jp/>

世界中で自転車タクシーを展開している会社

電動アシスト自転車Web

<http://powerassist.bicycle.client.jp/>

電動アシスト自転車購入を検討している人のためのサイト

お知らせ バックナンバーをプレゼント

多数のお申込みありがとうございます。引き続き『地球暮らし』全バックナンバープレゼント実施中です。右記のEメールかFAXまでお申込み下さい。

編集後記

終戦直後の日本には「輪タク」と呼ばれる自転車タクシーの元祖が走っていたそう。でも地下鉄が50銭のその時代に1km10円という、やたら高級な乗り物だったそうです。現代の自転車タクシーは、例えば20分乗って400円とかで利用できます。2~3kmの距離なら大丈夫。

このニュースレターに対するご意見、ご要望、投稿をお待ちしております。

Eメール: info@satsumahome.com

FAX : 06-6855-7700

郵便: 〒560-0053 豊中市向ヶ丘3-12-11

㈱さつまホーム企画室

さつまホームは地球温暖化防止に取り組んでいます

